

「敬老堂 Gyung-Ro-Dang」の利用実態に関する調査

Research on Actual Use Condition of [Gyung-Ro-Dang]

朴 成 実
Seongsil PARK

産業化・都市化・核家族化といった社会構造の変化によって余暇時間を持つようになった高齢者の欲求を充足し、生活に役立つ余暇善用機会を開発・普及することはとても重要な社会的課題になっている。

従って、本研究では韓国の老人余暇施設の中でもっとも利用率が高い「敬老堂(Gyung-Ro-Dang)」の利用実態を把握し、その活性化の方案を模索することで、社会的位相と機能を再考察する。主にソウル特別市の25各区庁より選定されたそれぞれの模範敬老堂について、それを利用する老人の行動および意識を調査した。

まず、各模範敬老堂の利用および運営実態を調査分析し、その問題点を要約すると、

- ①敬老堂を利用する側、つまり老人自身の問題としては、全般的に健康上の問題を抱え、経済的に不安定な状況にあり、教育水準が低く、家庭内で扶養されていないことが把握できた。
- ②施設においては、全般的に古くて狭い(平均30坪)状況であった。
- ③最も利用率が高い休憩室は、韓国の老人福祉法(第20条第1項17条)に定められている15㎡(4.5坪)の基準を満たすだけの平面計画であった。
- ④実施されている運営プログラムは、非組織的な消耗性活動が多く見られた。敬老堂では老人福祉と関連し、老人余暇活動を指導し、相談してくれる専門人力が不足していた。また行政機関の聴き取り調査では一般社会課の職員が全般を担っており、敬老堂運営に対し、期待し難い状況であることが分かった。
- ⑤人的サービスの点では、老人福祉と関連づけて老人余暇活動を指導し、相談を受ける専門人力が不足していた。
- ⑥ソウル特別市行政に対する聴き取り調査を行った結果、社会課の一般職員が敬老堂運営全般を担っており、現状以上のサービス向上は期待し難い状況であることが分かった。

以上の問題点から対策をまとめると、

- i 老人の健康状態の改善、年齢手当など所得保障の強化、老後のための老人教育を実施しなくてはならない。
- ii 老人福祉相談サービスをより効果的に実施しなくてはならない。
- iii 家庭奉仕員派遣事業の内実ある運営が必要であり、老人の短期保護サービスの受惠対

象と給与基準を上昇させなくてはならない。

- iv 施設側面からは零細施設の統合運営、敬老堂の施設基準の強化および制度的な保障、障害者と一般人の共同敬老堂の設置などが望ましいと考えられる。
- v 老人たちは人とのコミュニケーションを求めて多目的室に集まることが分かった。従って、人が集まりやすい空間計画が必要である。